

# 東大阪市

## 誰もが暮らしやすい社会づくりに向けたアンケート

### 報告書

#### 概要版

令和7年(2025年)3月  
東大阪市

#### ■調査の概要

##### ①調査の目的

本調査は、「第4次東大阪市男女共同参画推進計画」の見直しに関して、社会情勢に対応した適切な施策を推進していくための基礎資料を得ることを目的として実施しました。調査内容は多岐にわたりますが、この冊子では結果の概要を紹介します。

##### ②調査概要

調査対象：18歳以上79歳以下の市内在住者3,000人を無作為抽出

調査期間：令和6年(2024年)8月～9月

調査方法：郵送またはWEB回答

有効回収率：22.8% (682/2,987)

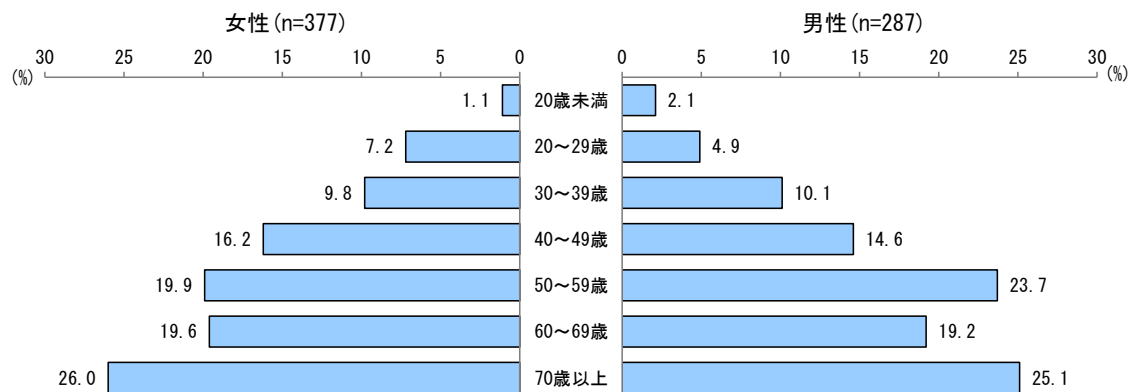
##### ③調査項目

仕事について、ワーク・ライフ・バランスについて、暮らしの悩みなどについて、子どもの育て方や教育について、防災・災害復興対策について、性のあり方について、配偶者や恋人間の暴力について、男女共同参画社会の形成に関する意識について

##### ④報告書概要版の見方

- ・図表中の「n」は、それぞれの回答結果の割合の分母(100%にあたる数)です。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる複数回答形式の質問の場合も、回答者の総数(n)に対して、それぞれの選択肢の回答者数の割合を示しており、図表上では、「MA%」(MA: Multiple Answer の略)と表記しています。

#### ■回答者の年齢構成

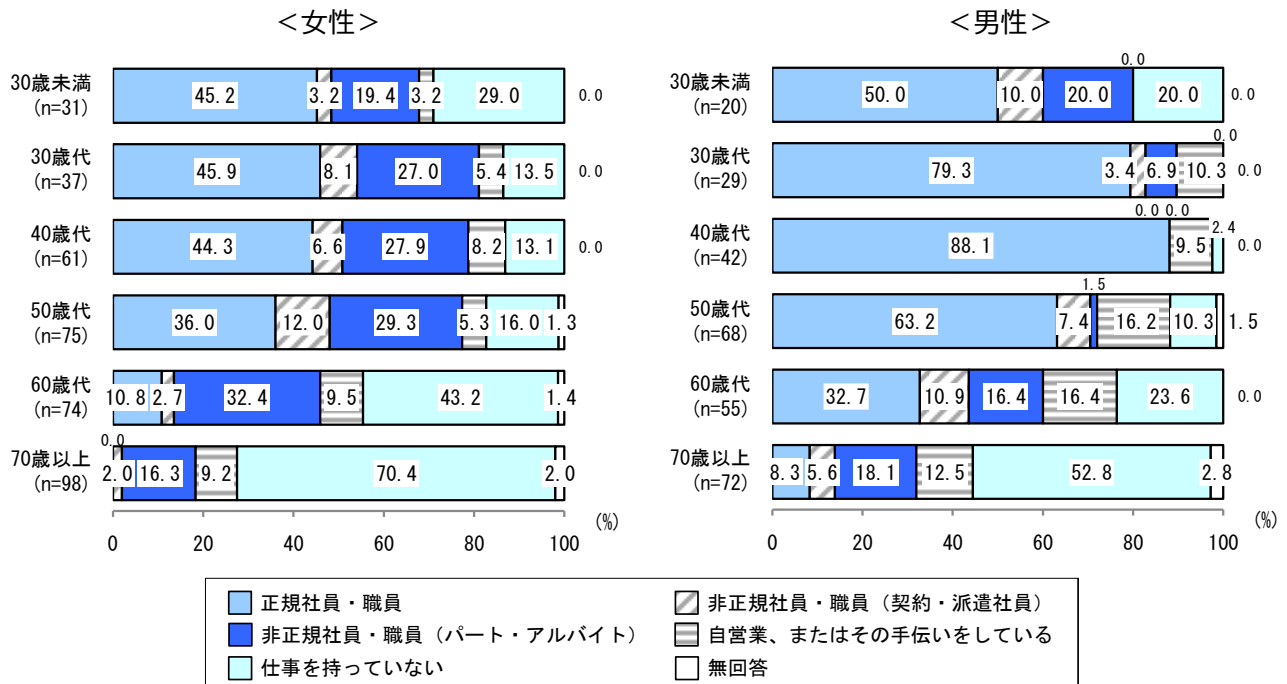


## 1. 仕事について

### ■本人の就労形態

#### ▼男女で就労形態に差がある

就労している人が増えていますが、50歳代以下の女性は就労していない人が男性より多く、またすべての年齢で女性の雇用形態に非正規が多く見られます。

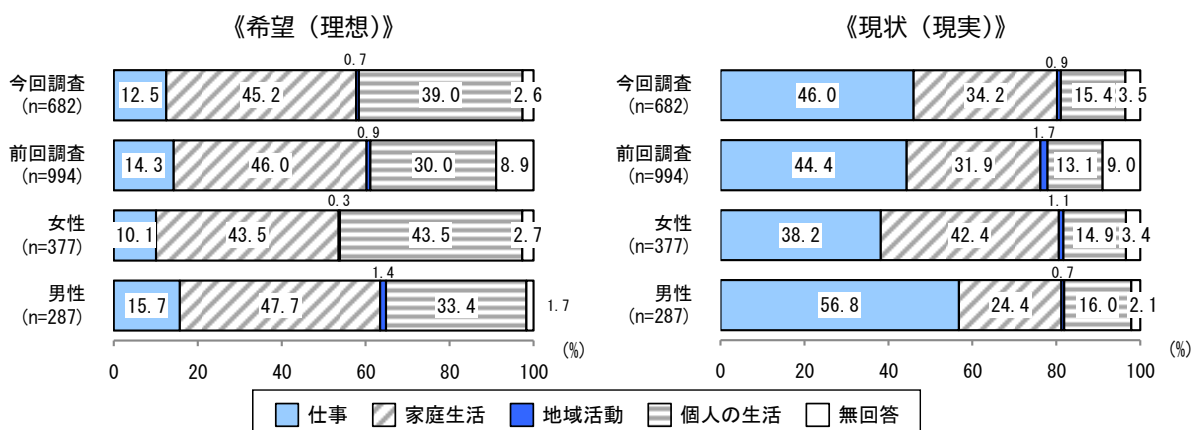


## 2. ワーク・ライフ・バランスについて

### ■生活の中で第1に優先したい（されている）こと

#### ▼家庭・個人の生活を優先したい人が増加

男性・女性ともに家庭生活を最も優先したい人が多く、個人生活を優先したい人も増えていきます。しかし現実には、特に男性で仕事優先の生活をしている人が多く、理想と現実のギャップが大きくなっています。



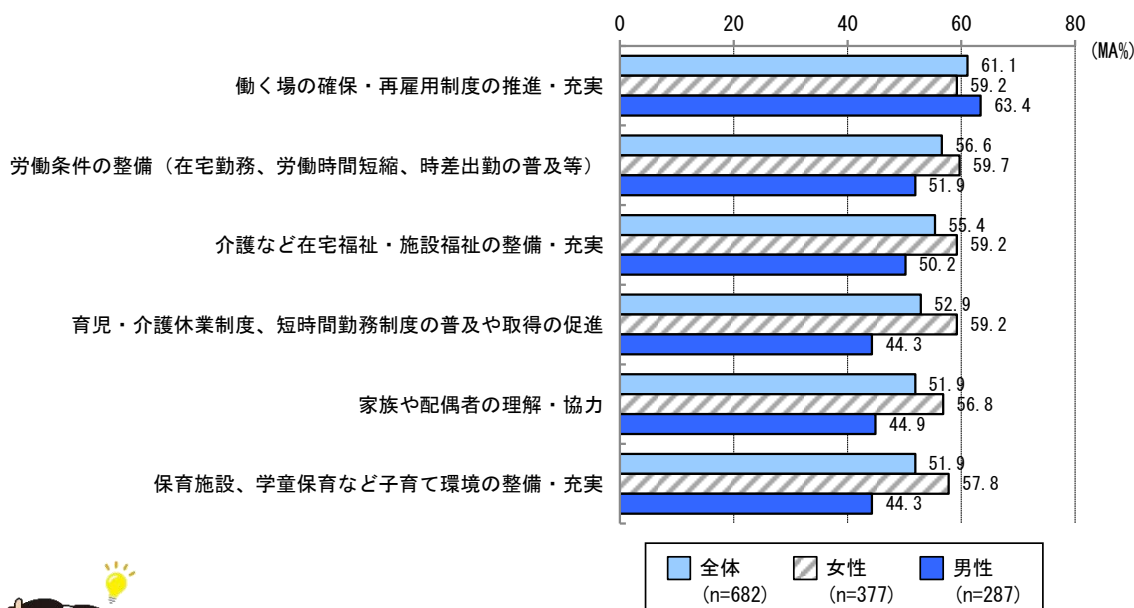
## ■仕事と生活の調和を図るために必要なこと

### ▼女性は労働条件の整備や在宅福祉・施設福祉の整備、育児・介護休業制度等の普及や取得の促進などを望む声が多い

「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」が最も多く、次いで「労働条件の整備（在宅勤務、労働時間短縮、時差出勤の普及等）」、「介護など在宅福祉・施設福祉の整備・充実」が上位です。

「育児・介護休業制度、短時間勤務制度の普及や取得の促進」、「保育施設、学童保育など子育て環境の整備・充実」などでは、女性が男性を大きく上回っています。

【全体の上位5位】



### ワーク・ライフ・バランスとは？

誰もが、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで取り組むことができる状態のことです。

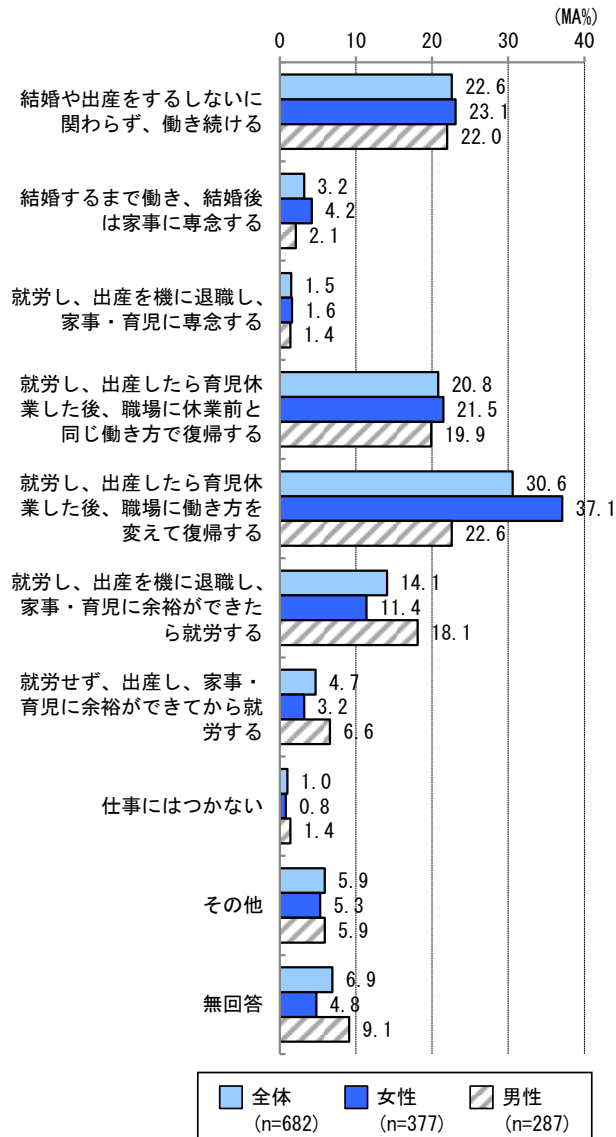


## ■女性の望ましい働き方と実際の働き方

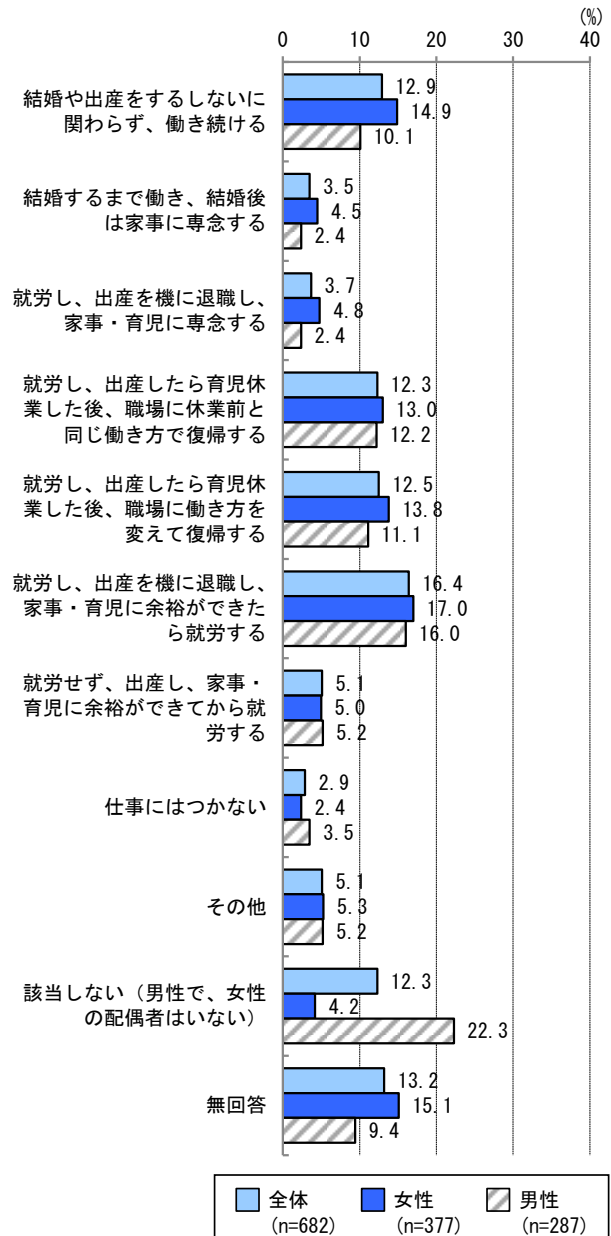
### ▼女性が望む働き方は「就労継続」であるが、実際は「再就労」

女性の“望ましい働き方”は、男女ともに「就労し、出産したら育児休業した後、職場に働き方を変えて復帰する」（就労継続）が最も多くなっています。“実際の働き方”は、「就労し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら就労する」（再就労）が最も多くなっています。

■望ましい働き方



■実際の働き方

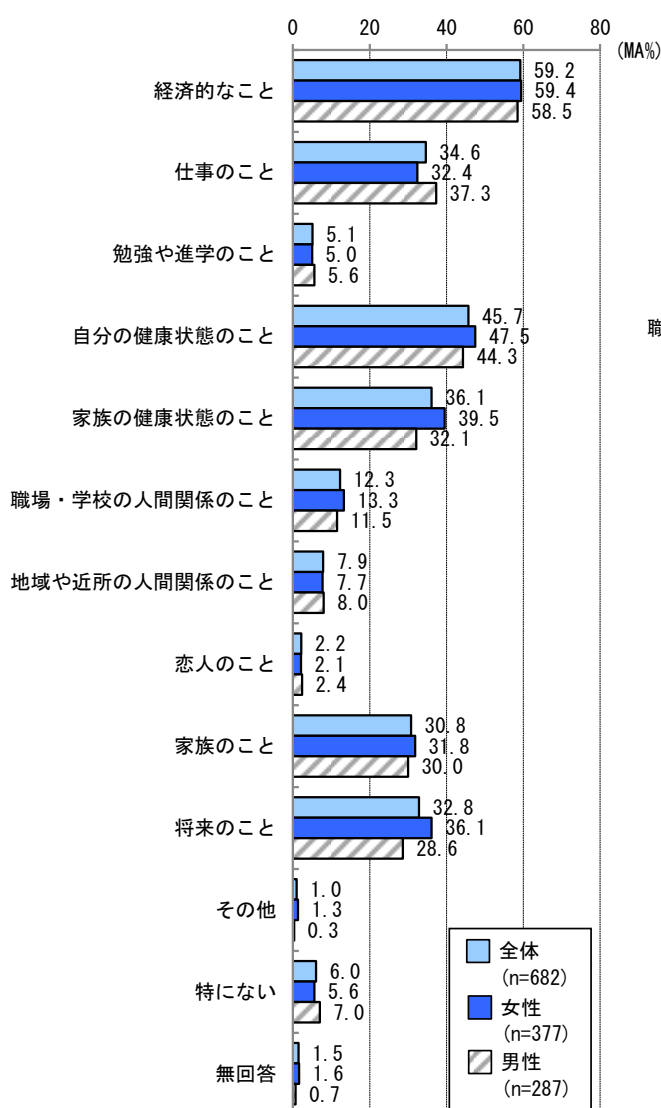


### 3. 暮らしの悩みなどについて

#### ■生活の中でのストレス

##### ▼経済的なストレスが最も多い

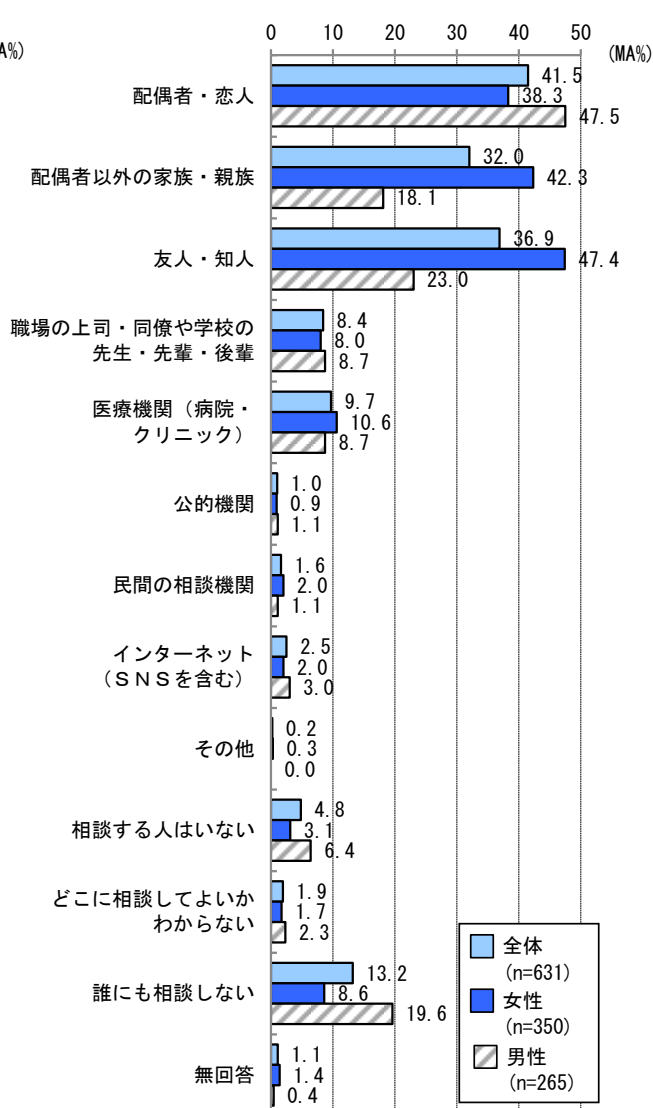
「経済的なこと」が最も多く、次いで「自分の健康状態のこと」、「家族の健康状態のこと」となっています。



#### ■ストレスについての相談相手

##### ▼女性よりも男性の方が「誰にも相談しない」「相談する人はいない」が多い

「配偶者・恋人」が最も多く、次いで「友人・知人」、「配偶者以外の家族・親族」となっています。「誰にも相談しない」「相談する人はいない」は女性より男性の方が高くなっています。公的機関・民間の相談機関より医療機関に相談する人が多いです。



## 4. 子どもの育て方や教育について

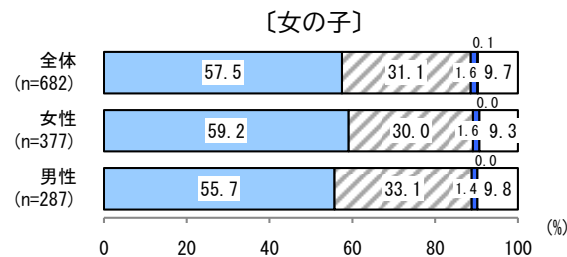
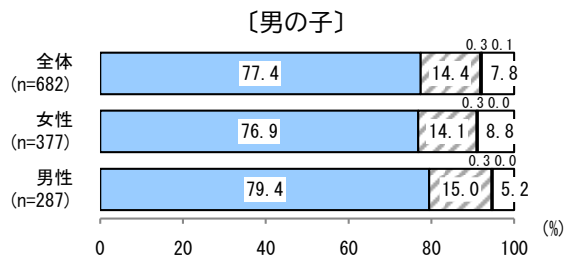
### ■子どもに身につけてほしいこと

#### ▼「女の子」と「男の子」で身につけてほしいことが違う

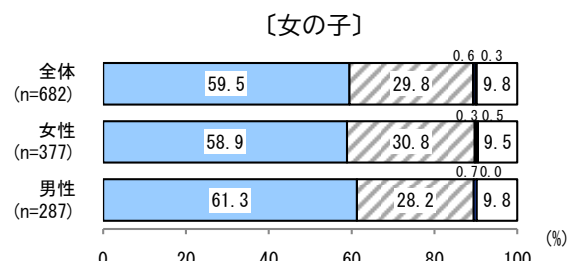
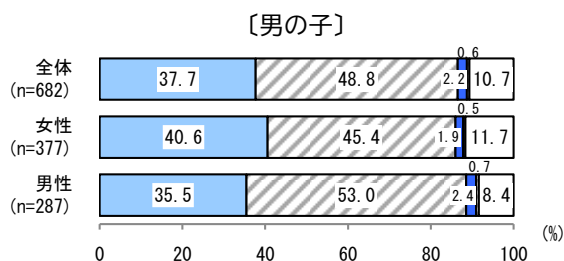
「必ず身につけるべき」の割合は、女の子では“家事・育児の能力”が最も高く、男の子では“自立できる経済力”が最も高くなっています。

#### ■自立できる経済力

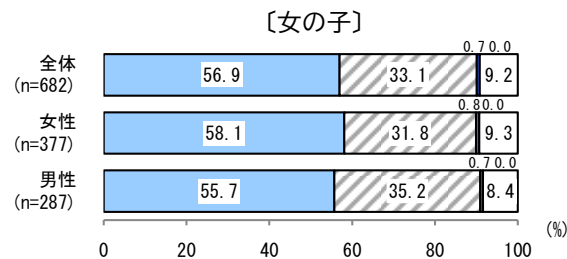
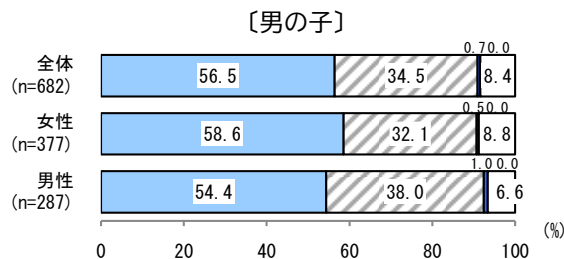
※「必ず身につけるべき」の上位5位



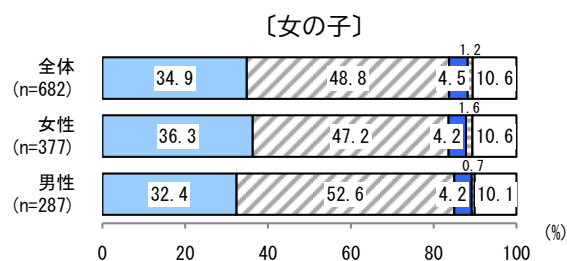
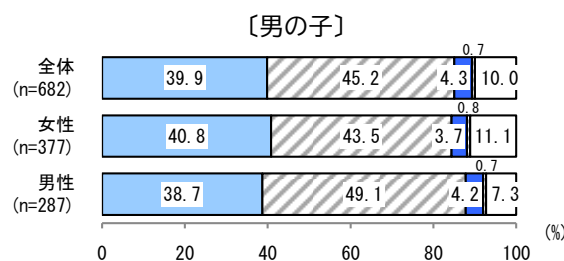
#### ■家事・育児の能力



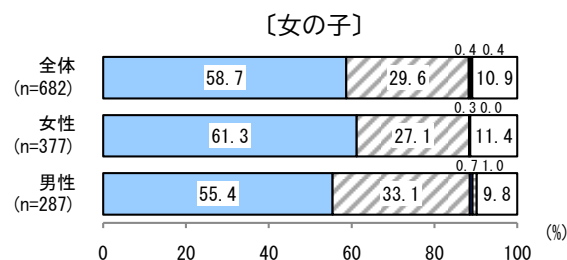
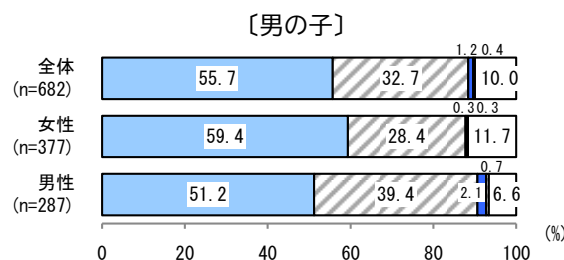
#### ■家族や周囲の人と協調して円滑に暮らす力



#### ■自分の意思によって社会とかかわる力



#### ■困った時に助けを求める力



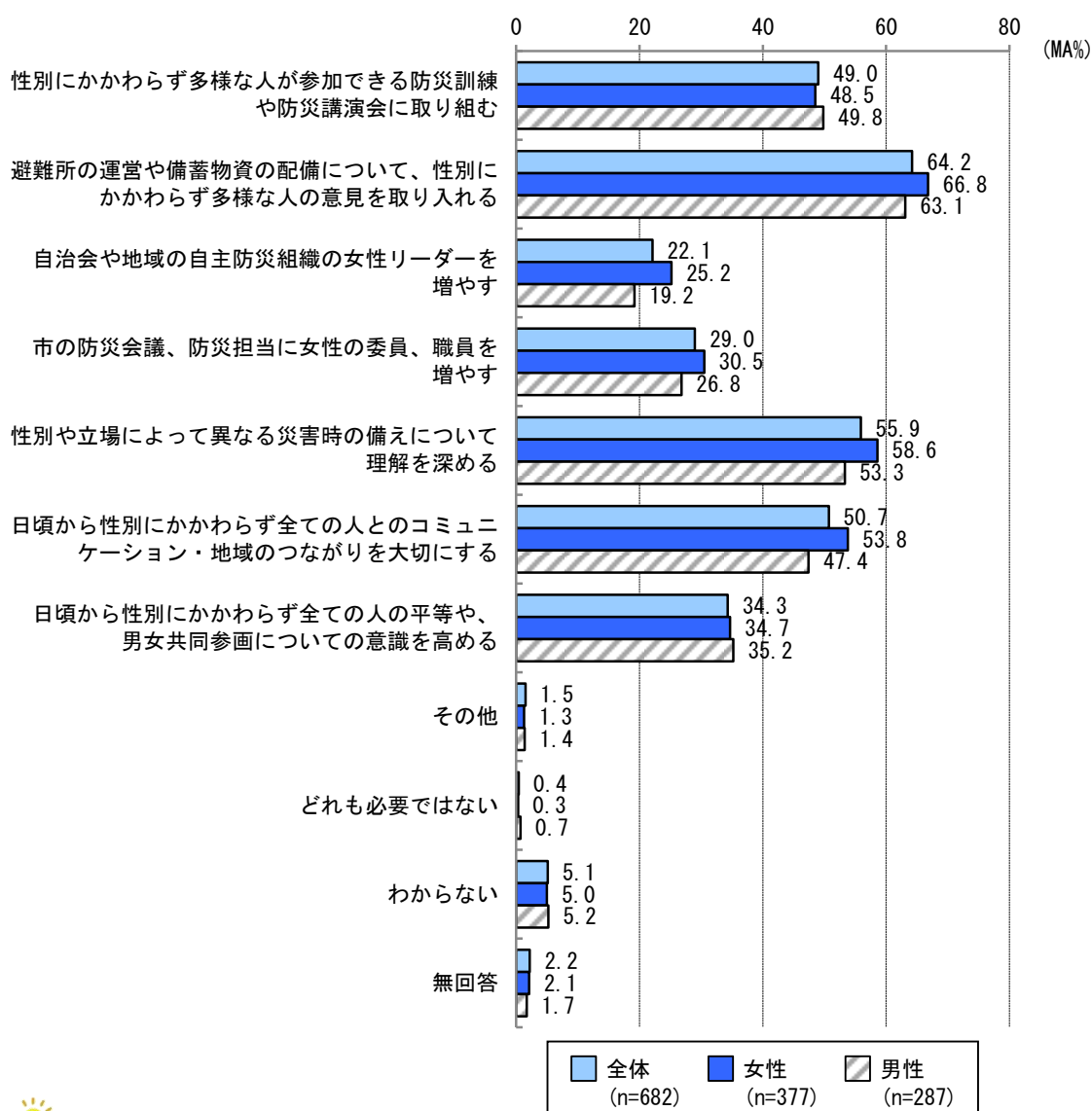
必ず身につけるべき
  できれば身につけてほしい
  あまり身につけなくてよい
  身につけなくてよい
  無回答

## 5. 防災・災害復興対策について

### ■防災・災害復興対策において、性別や多様性に配慮した防災に必要な取り組み

#### ▼避難所運営や備蓄物資について、性別や多様性への配慮を求める声が多い

「避難所の運営や備蓄物資の配備について、性別にかかわらず多様な人の意見を取り入れる」が男女とも最も多く、次いで「性別や立場によって異なる災害時の備えについて理解を深める」、「日頃から性別にかかわらず全ての人とのコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」となっています。



#### 自主防災組織とは？

自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織で、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織です。東大阪市では校区自治連合会の組織を活かして結成されています。

災害による被害を最小限に食い止め、地域住民の生命と財産を守っていくためには、地域住民自らが災害の初期の段階で適切な防災活動を行うことが大変重要となります。



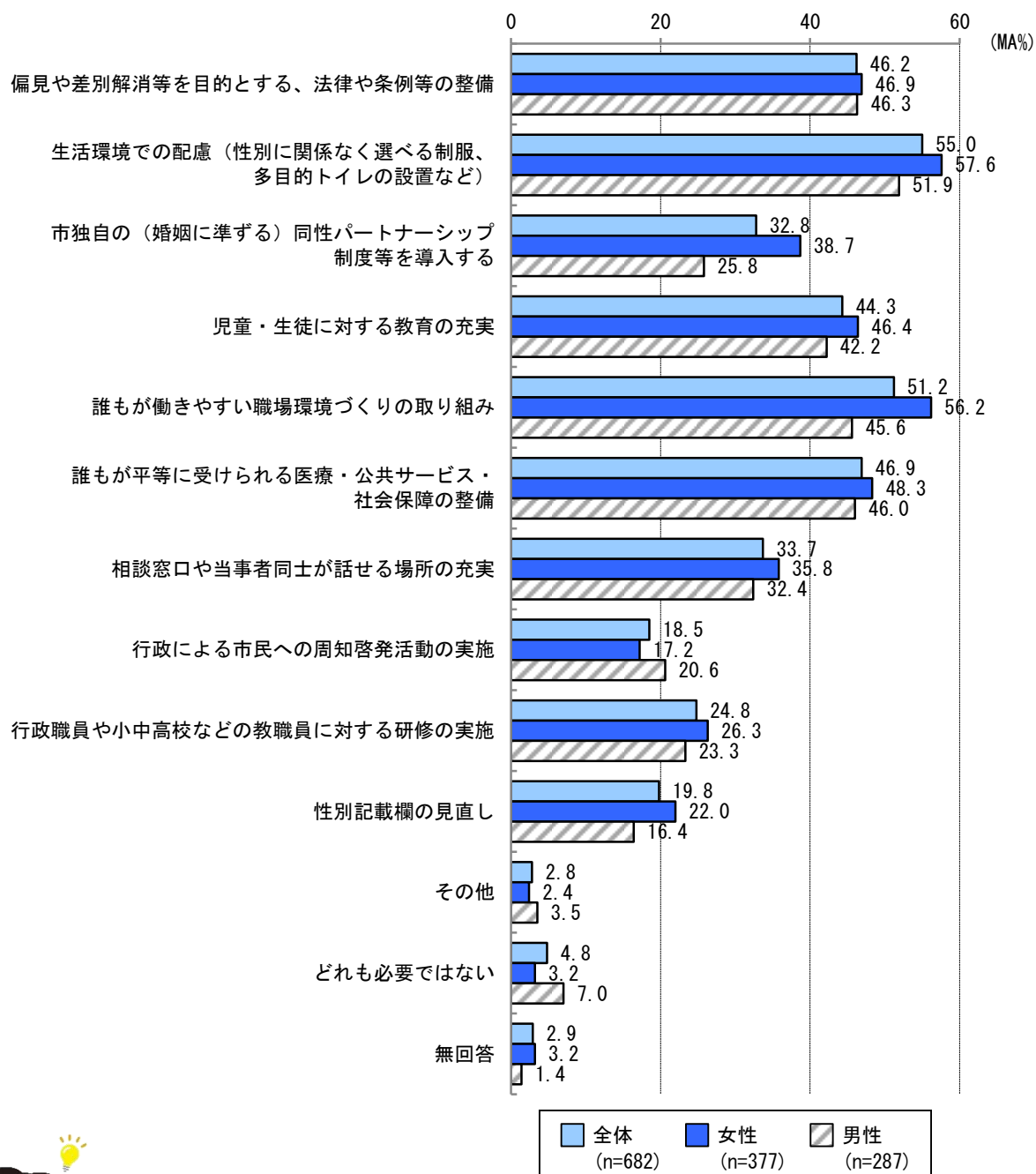
## 6. 性のあり方について

### ■性的マイノリティの人々にとって生活しやすい社会を実現するために必要な対策

#### ▼生活環境での配慮が求められている

「生活環境での配慮（性別に関係なく選べる制服、多目的トイレの設置など）」が最も多く、次いで「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」となっています。

「市独自の（婚姻に準ずる）パートナーシップ制度等を導入する」「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」で女性が男性を大きく上回っています。



#### 性的マイノリティとは？

性的指向（恋愛感情又は性的感情の対象となる性別についての指向）が同性や両性であったり、性自認（自分の性別をどう認識しているか）が身体的性別と一致していないなどの人々のことです。



## 7. 配偶者や恋人間の暴力について

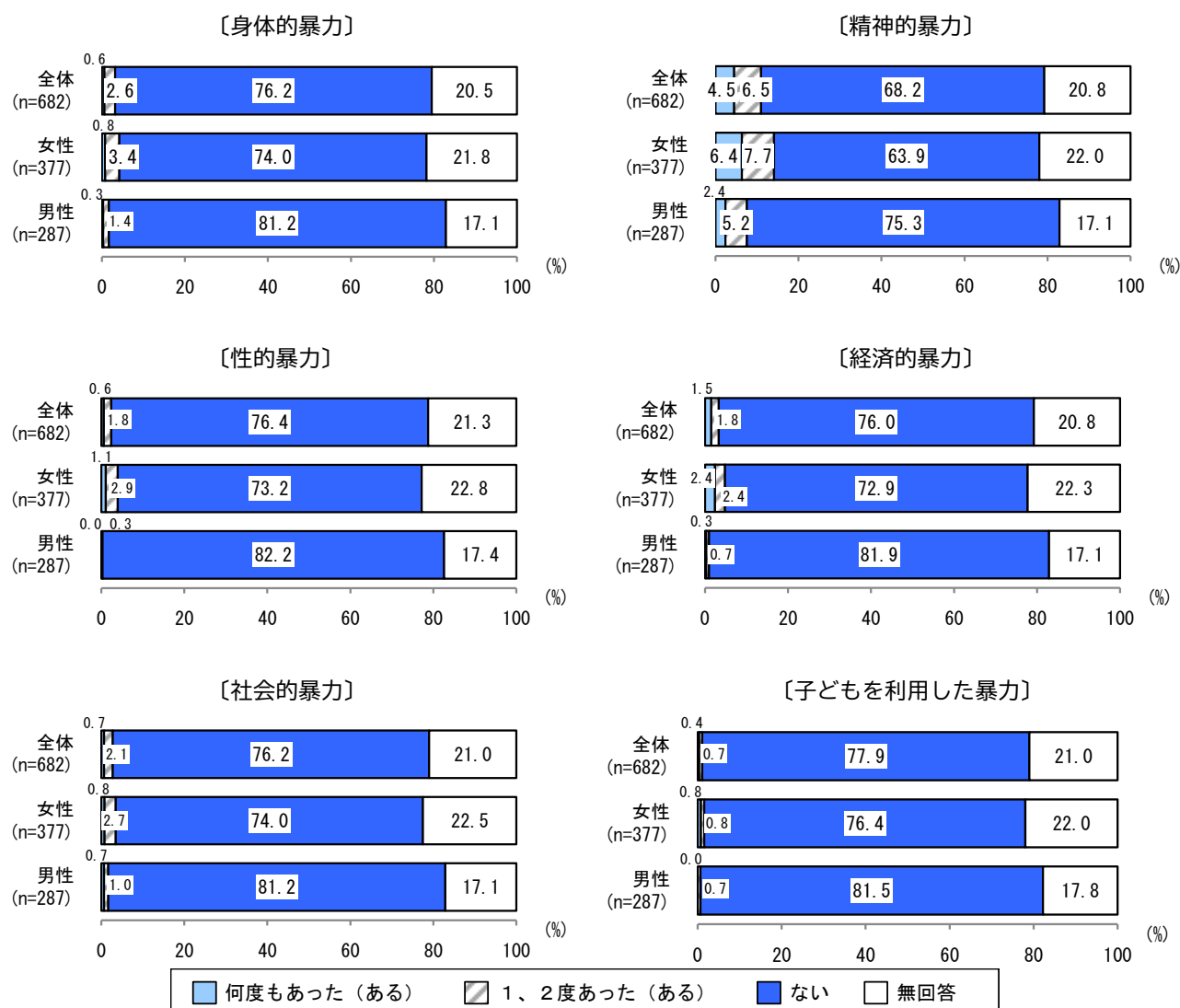
### ■配偶者や恋人間の暴力の状況

#### ▼精神的暴力が最も多い

配偶者や恋人にされたことが『あった（ある）』は“精神的暴力”が最も多く、次いで“経済的暴力”、“身体的暴力”となっています。いずれの暴力も男性より女性のほうが高い割合となっています。

|            |                                      |
|------------|--------------------------------------|
| 身体的暴力      | 殴る蹴る、首をしめる、つきとばす、髪を引っ張る、物をなげつける など   |
| 精神的暴力      | どなる、脅す、ばかにする、無視する、自殺をほのめかす など        |
| 性的暴力       | 性行為を強要する、避妊に協力しない など                 |
| 経済的暴力      | 生活費を渡さない、外で働かせない、借金を繰り返す など          |
| 社会的暴力      | 外出を制限する、メールや電話をチェックする、友人や家族と会わせない など |
| 子どもを利用した暴力 | 子どもを取り上げると脅す、子どもに暴力を見せる など           |

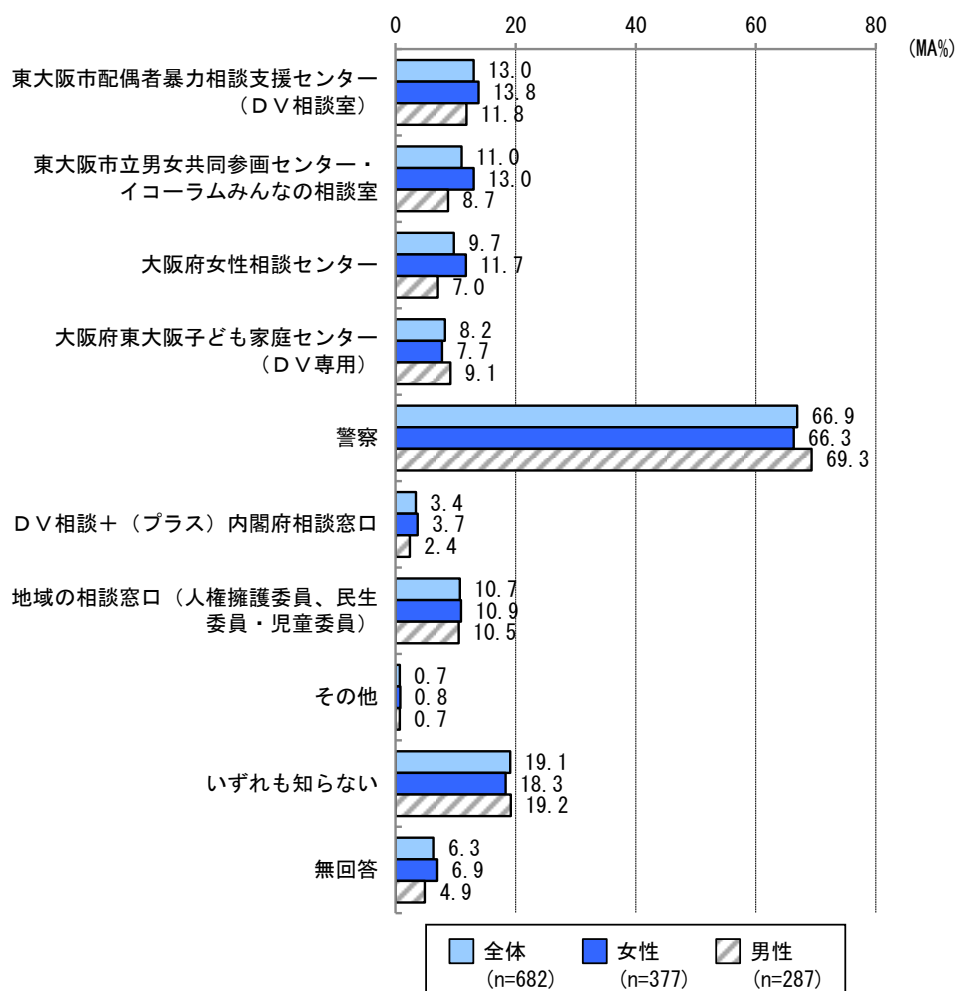
【配偶者や恋人間の暴力の状況（されたこと） ※過去5年間】



## ■配偶者や恋人から暴力の被害にあった際の相談機関や窓口の認知度

### ▼相談機関や窓口を知らない人が約2割

「警察」が最も多く、次いで「東大阪市配偶者暴力相談支援センター（DV相談室）」、「東大阪市立男女共同参画センター・イコーラム みんなの相談室」となっています。一方で、「いずれも知らない」が約2割となっています。

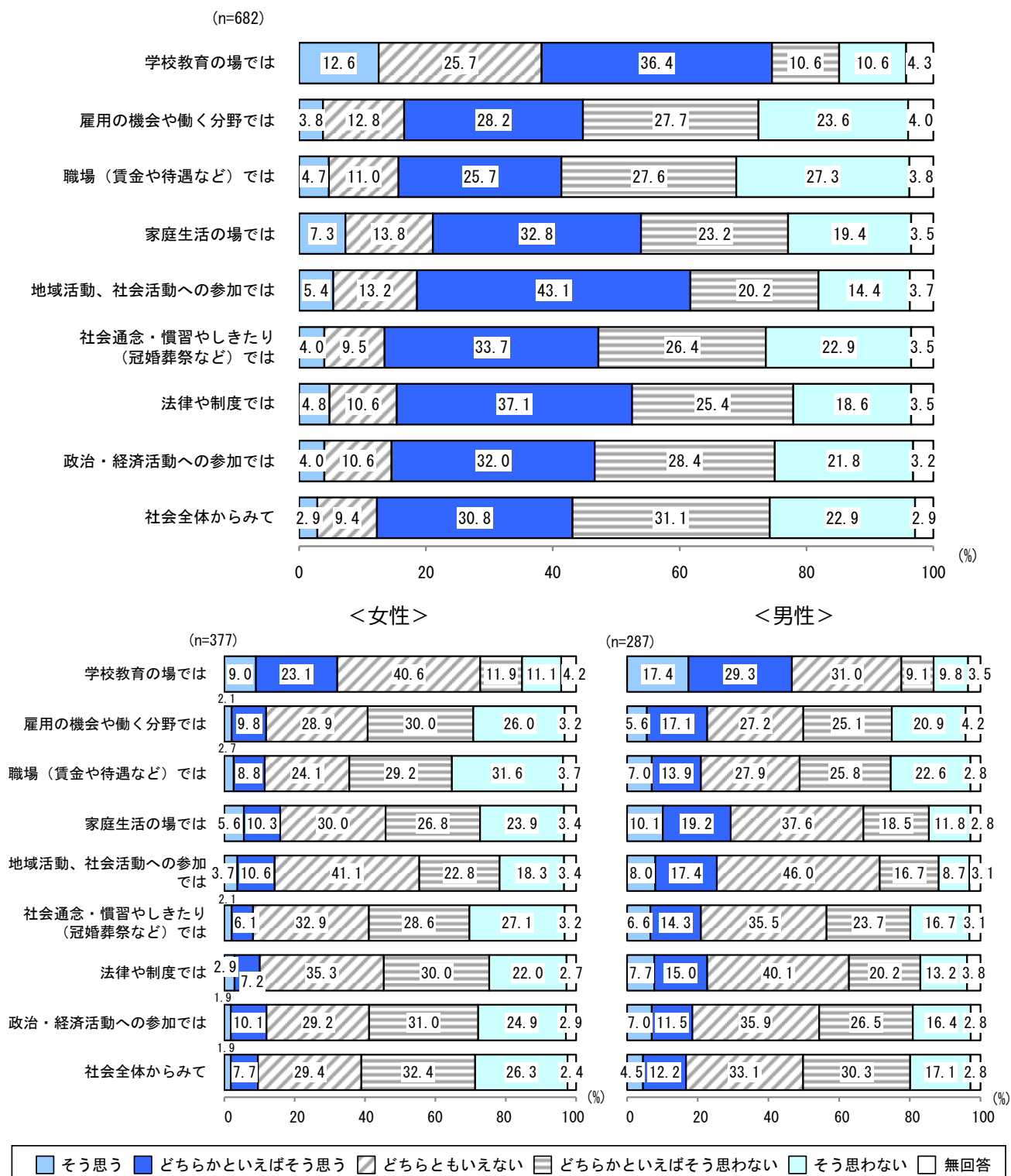


## 8. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

### ■社会における男女平等意識

#### ▼女性の方が不平等感を感じている

『平等になっていると思わない』の割合は職場（賃金や待遇など）が最も高く、次いで“社会全体からみて”、“雇用の機会や働く分野では”の順で高いです。いずれの項目も男性より女性の方が高く、特に家庭、法律や制度、慣習、地域活動で差が大きくなっています。





令和7年（2025年）3月  
東大阪市 人権文化部 多文化共生・男女共同参画課  
〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目1番1号  
TEL：06-4309-3300（直通） FAX：06-4309-3823